

人間は、言葉を発見してから他の動物とは違った存在になりました。

その言葉というものは口から出た瞬間に消えてしまいます。保存することができません。テープレコーダーがなかった昔は、言葉というものは口から出してしまえばそれで終わりでした。

どんなに大切な言葉でも、保存しておくことができないという欠点がありました。遠く離れた人に自分の意思を言葉で伝えたいと思っても、言葉というものは遠くまで届かないのです。

言葉は、時間的にも空間的にも制限された存在です。これを時間を超え空間を超えて伝えたい、人類は言葉をもった瞬間からこう願ったに違いないでしょう。しかし、それはなかなかできませんでした。100万年の人類の歴史の中でも、99万年もの間、言葉自体は存在したものの、文字として記録する手段がありませんでした。その場で消えてしまっていたわけです。

ところが、言葉を伝える文字をスメール人が世界で初めてつくったのです。この文字は20世紀になって発見されましたが、まことに素晴らしいものです。私が推察するに、その後の文字はすべてはこれが手本、すなわち原型になっています。

つまり、漢字もこの影響によってつくられたものであると考えられます。いや、漢字は中国人が作りだしたというのが専門家の通説です。しかし、私はそれは不自然であると思っています。

世界で文字をつくりだした民族は、このスメール人、続いてエジプト人です。従来はエジプトが最初だと考えられていました。それはスメール文字(楔形文字)が発見されなかったからです。エジプト文字の次はインドの文字です。インドの文字も今世紀になってから発見されました。

やはり地下から発掘されました。

インドにはガンジス川とインダス川という二つの大河が流れています。ガンジス川は東の方に向かって流れ、インダス川は西の方に向かって流れます。このインダス川の中流に、モヘンジョダロやハラッパといった遺跡が発見されたのです。今から4000年くらい昔だろうと推察されますが、これも見事な文化を持っていたことがわかります。

ここからも文字が発見されましたが、これは従来のインドではまったく見られなかった文字です。このような文字があるということは、19世紀まではわからなかったのです。

これも実はスメール文字と同じ構造を持った文字です。インドの文字も、やはりスメール文字に影響を受けているということがわかります。エジプト文字も同じ構造を持っています。

そして漢字が誕生したのは、今から3000年前と推定されます。中国に「商」という国があったといわれています。これも伝説だという学者が多かったのですが、今世紀になって地中からその証拠が出土しました。

これを「殷墟」といいます。商のことを別名で殷と呼びます。その殷の都があったと思われる廃墟から発掘されたので、明らかに実在した国であることがわかりました。

ポイント:親のいない子が立派な人間になったりしますが、あれは変な教育を受けなかったからだと思います。いい教育も受けられなかったかもしれないけれど、少なくとも個性を潰すような悪い教育は受けていません。詰め込みはされなかったから、放って置かれたにもかかわらず素晴らしい人間に成長したわけです。